

# 大学における性暴力への対応 ～被害者支援から予防まで～

島根大学  
保健管理センター  
学長特別補佐（男女共同参画担当）

河野 美江

有名大学

運動部

飲み会

男子学生

医学部

集団レイプ

被害者

大学コミュニティの傷つき  
(学生, 教職員, ブランドイメージ)

本日の目標

性暴力を理解し、性暴力被害者支援、  
性暴力予防について考える

目的

性暴力のない大学にする

# 1.性暴力とは

---

# 性暴力被害の様々な影響

## 性や妊娠・出産に関わる健康への影響

- ・望まない妊娠
- ・性感染症 など

## 身体への影響

- ・被害による負傷
- ・眠れない、悪夢
- ・めまいや吐き気、痛みなど様々な身体の不調

## 心への影響

- ・恐怖、不安、自責感、怒りなどの様々な感情
- ・感覚や気持ちの麻痺
- ・気分の落ち込み など

## 社会生活や

## 対人関係への影響

- ・仕事や学校に行けない
- ・外出したり活動ができない
- ・人に会いたくなくなる
- ・人間関係が悪くなる など

# 性犯罪と性暴力

身体の統合性と性的自己決定を侵害するもの

国連「女性に対する暴力に関する立法ハンドブック」

## 性暴力

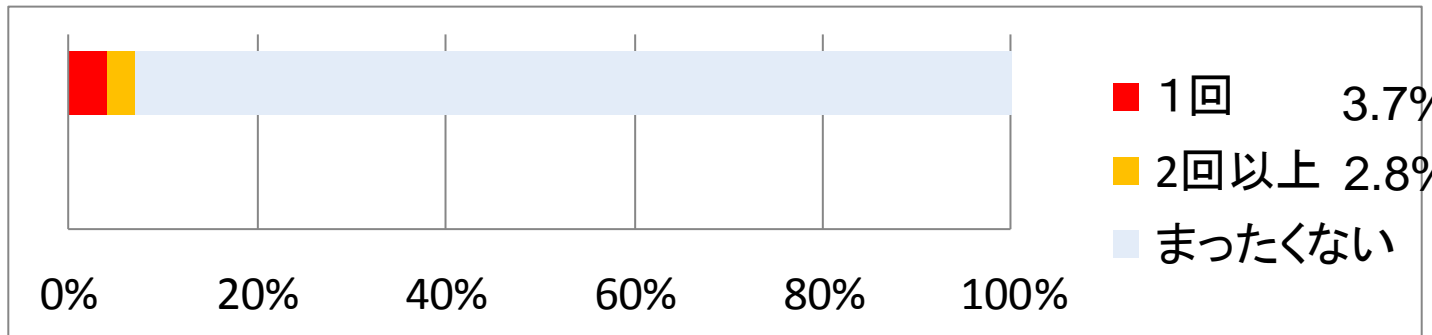
同意がなく強要されたすべての性行為

## 性犯罪

刑法上の強制性交等罪、強制わいせつなどの  
性的欲求等に基づく身体犯

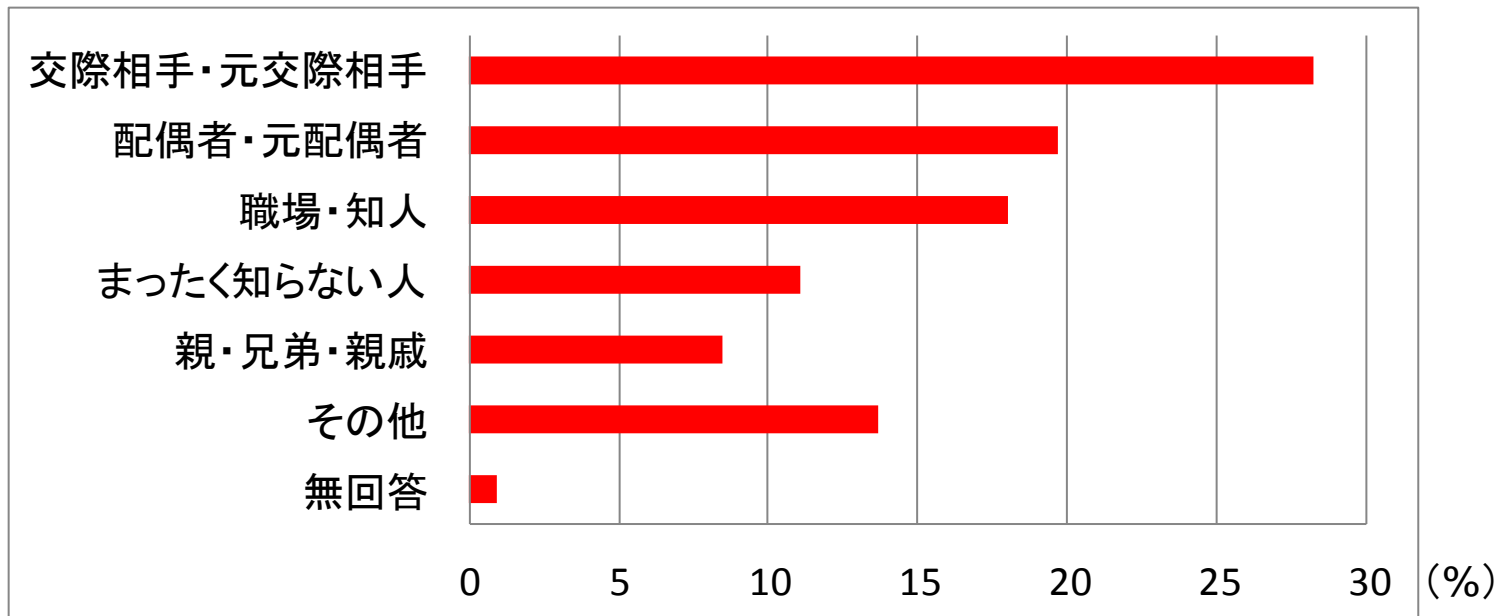
# 異性から無理やりに性交されたことがあるか？ (n=1,811)

あり 6.5%



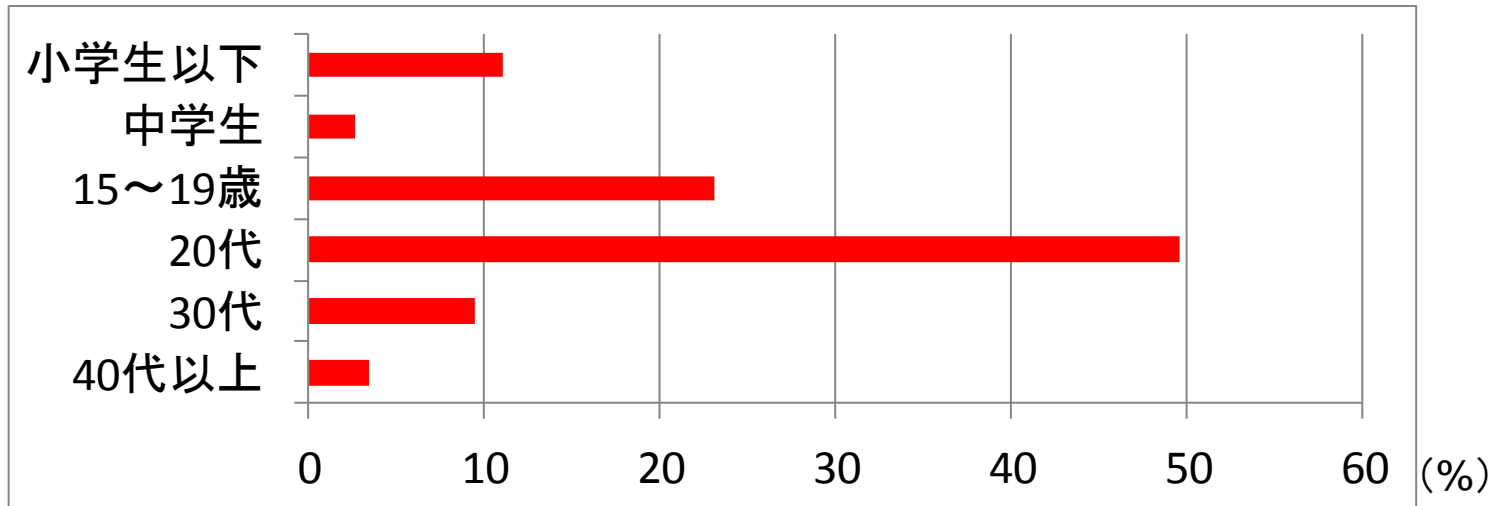
## 加害者との関係 (n=117)

見知らぬ人 11.1%



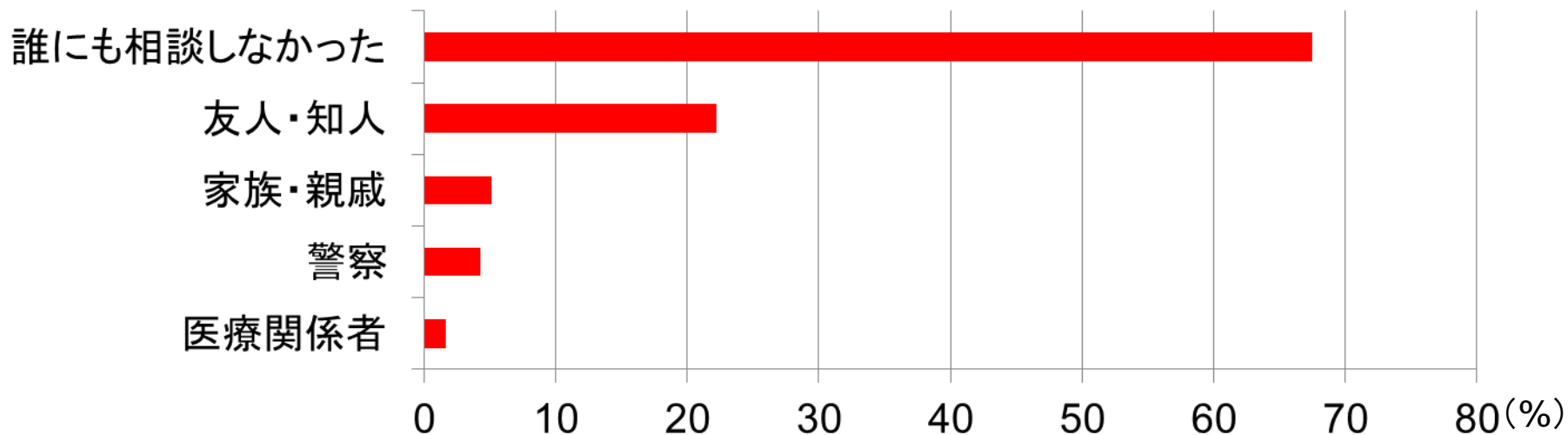
## 被害にあった時期 (n=117)

「20歳まで」が35.8%

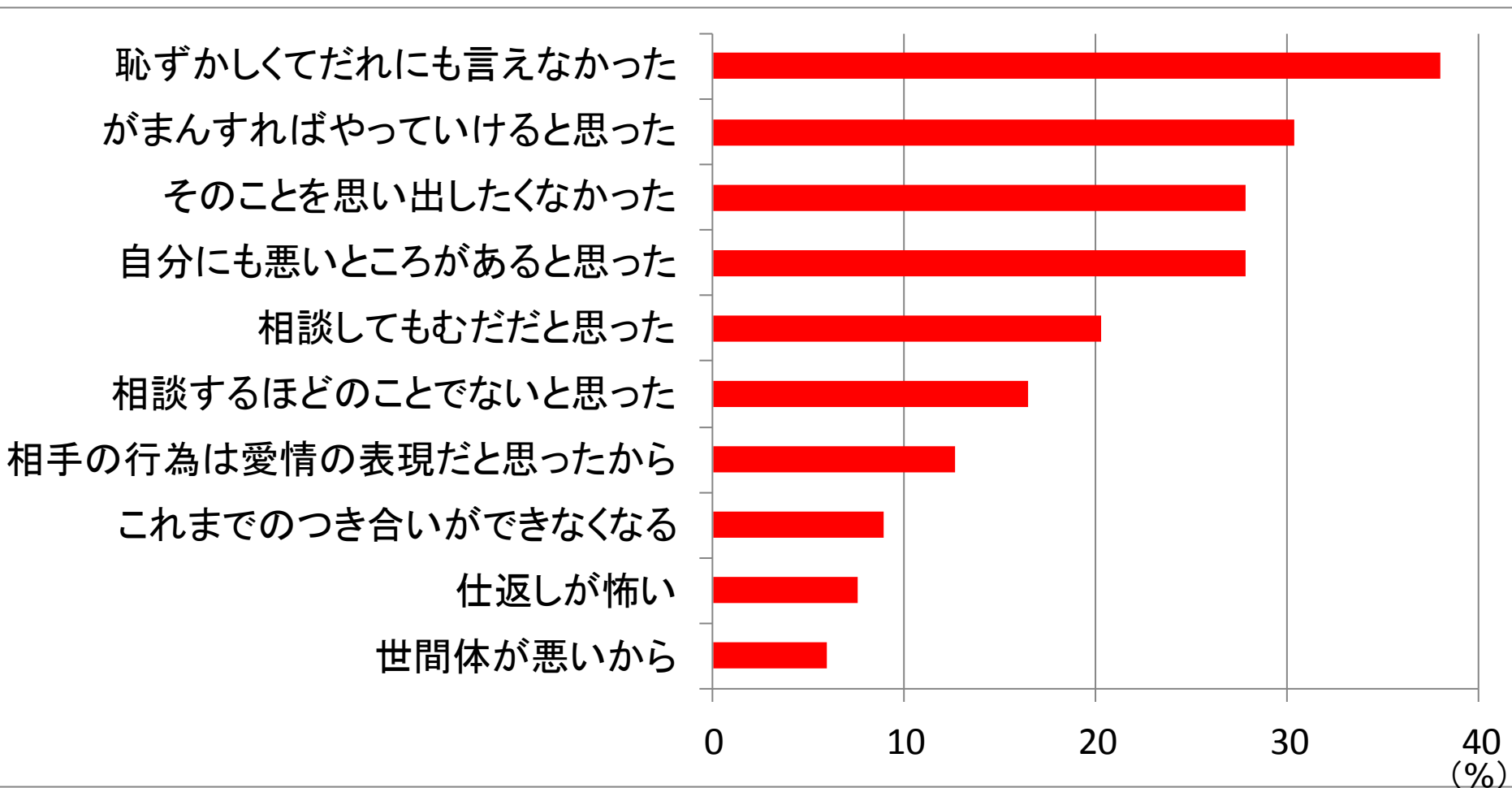


## 被害の相談先 (複数回答)

「誰にも相談しない」が67.5%



# 相談しなかった理由 (複数回答)





# レイプ神話

レイプやレイプ被害者、レイプ加害者に対する、偏見を抱かせるステレオタイプの、あるいは誤った思い込み

Burt (1980)

# 1. 若い女性だけがレイプ被害にあう

- 乳幼児から高齢者まで、すべての年代の女性が被害にあっている
- 女性だけでなく、男性から男性への性暴力も存在する

## 2. レイプは、女性側の挑発的な服装や行動が誘因となる

- 実際には被害女性の多くが挑発的な服装や行動はしていない
- むしろ加害者は、地味な服装の女性を「おとなしそうで、訴えないだろう」と、ねらうことがある
- 女性の服装がどうであれ、犯罪を正当化する理由にはならない

### 3. レイプ加害者のほとんどは、 見知らぬ人である

- 被害者の約9割が面識のある人から被害を受けている
- 顔見知り、職場関係、家庭内等での被害は警察に被害届を出すことをためらい、被害届を出しても受理されないケースがめだつ

### 4. レイプはほとんど暗い夜道や ひと気のない場所で起こっている

- 2016年度に都内で発生したレイプ事件のうち、約49%が住宅、20%がホテル・旅館などで発生

※「こんな時間、場所がねらわれる」警視庁

## 5. レイプは加害者の性欲が強すぎて、 コントロールできずに起こっている

- 性暴力は、支配、征服、所有の欲望が性的行為というかたちになったもので、多くは計画的な犯行である
- 多くの加害者には性的パートナー（恋人、妻など）がいる

## 6. 自ら進んで酔っぱらった人は、 レイプされても文句を言えない

- 大学のサークル等で起こる性暴力は「先輩後輩という上下関係」のもとで、「飲酒の場」を使って行われることが少なくない
- お酒は「相手の正常な判断能力や抵抗力を失わせる」手段として使われる

## 7. レイプされた被害者は しばらく泣き暮らす

- 被害直後に、被害者が日常を早く取り戻そうと、一見、何事もなかったかのように暮らす場合もある
- ケラケラ笑ったり、「よくわからない」と言うなど、言動が不可解なことがある
- 性暴力被害はPTSD、抑うつ、解離が生じやすい

## 8. 本気で抵抗すればレイプされない

- 「なぜ嫌と言わなかったか」「どうして逃げなかったか」などとよく言われる
- 被害者は恐怖心から凍りついたようになってしまい、声をあげることすらできないことが多い

## 9. 女性は感情的になりやすく、物事を誇張して言ったり、男性を陥れるために嘘をついたりする

- 大半のレイプ被害者は、警察にすら通報しない
- 言っても信じてもらえないから、とってしまったため、レイプ被害者が警察に通報する割合は、わずか4.3%
- 勇気を出して告発した人の言葉を頭から疑うことは避けるべき

# 二次被害（セカンドレイプ）になりうる言葉

- ・ どうして逃げなかったの
- ・ 何をやっていたの
- ・ なぜ、助けを呼ばなかったの
- ・ 思ったより元気そうだね
- ・ しっかりしているから大丈夫
- ・ 早く忘れた方がいいよ
- ・ これくらいで済んでよかった
- ・ ～よりまだましですよ
- ・ つらいのはあなただけじゃない
- ・ 気にしないで
- ・ 大丈夫、よくなりますよ
- ・ がんばって！しっかり
- ・ 私だったら気が狂ってしまおう
- ・ こうすればよかったのに・・・
- ・ なぜ、もっと早くに話さなかったの

私たちが気をつけることは  
セカンドレイプをしないこと

## 2.性暴力被害者支援

---



# 性暴力被害がおこったら・・・

18歳女性

レイプ被害にあい、産婦人科外来を受診した

こんな時、できることがたくさんある

1. 産婦人科での対応
2. 精神面への対応
3. 警察への連絡
4. 家族・友達への対応
5. 法的支援

# 1. 産婦人科での対応

- 妊娠
- 緊急避妊ピル（ノルレボ錠）  
（性交の72時間以内に内服）
- 妊娠判明後に来院した場合、  
妊娠継続について話し合い  
自己決定してもらう
- 性感染症検査と治療
- 淋病、クラミジア、梅毒、HIV、B型肝炎
- 証拠採取



CQ2 性暴力被害者への対応  
はどうすればいい？



## 2. 精神面への対応

レイプはPTSDになりやすい  
自然災害3%、戦闘50%、レイプ60%

### 急性ストレス障害

- ・ 心理教育
- ・ 本人への支援
- ・ 家族の理解
- ・ 投薬

### 心的外傷後ストレス障害 (PTSD)

- ・ 精神科医、臨床心理士による専門的な治療
- ・ 家族の理解
- ・ 投薬

安全な環境づくりがまず第一

4週間

数カ月～数年

### 3. 警察への連絡

#### 警察でできること

- ・ 被害者の安全確保
- ・ 被害届を出し、加害者逮捕につなげる
- ・ 初診料、緊急避妊、診断書料等が公費負担に
- ・ 加害者の証拠採取

採取可能なワンストップセンターあり

行政、ワンストップセンターで負担もあり

警察への連絡は、  
説明した上で本人が決める

## 4. 家族・友人への対応

大切な人が被害にあうと、家族や周囲もショックを受け、どのように対応してよいかわからなくなる

### 身近な人ができることについて心理教育

- 被害者を一人にしないで、誰かがそばに付き添う
- 被害者が話す時には丁寧に耳を傾け、相談相手になる
- 被害者の気持ちや意思を尊重する
- 被害者の身体に注意し、医療的ケアを勧める
- 食事や睡眠がとれているかを確認し、食事や買い物の手助けをする

# 5. 法的支援

- 警察に被害届を出した時  
刑事事件の被害者側の弁護人  
民事裁判・示談交渉等の代理人
- 警察に被害届を出さない時  
民事裁判・示談交渉等の代理人

この前はごめんね！  
怒ってる？

また会いたいね♡

弁護士が交渉することで、被害が止むことも多い

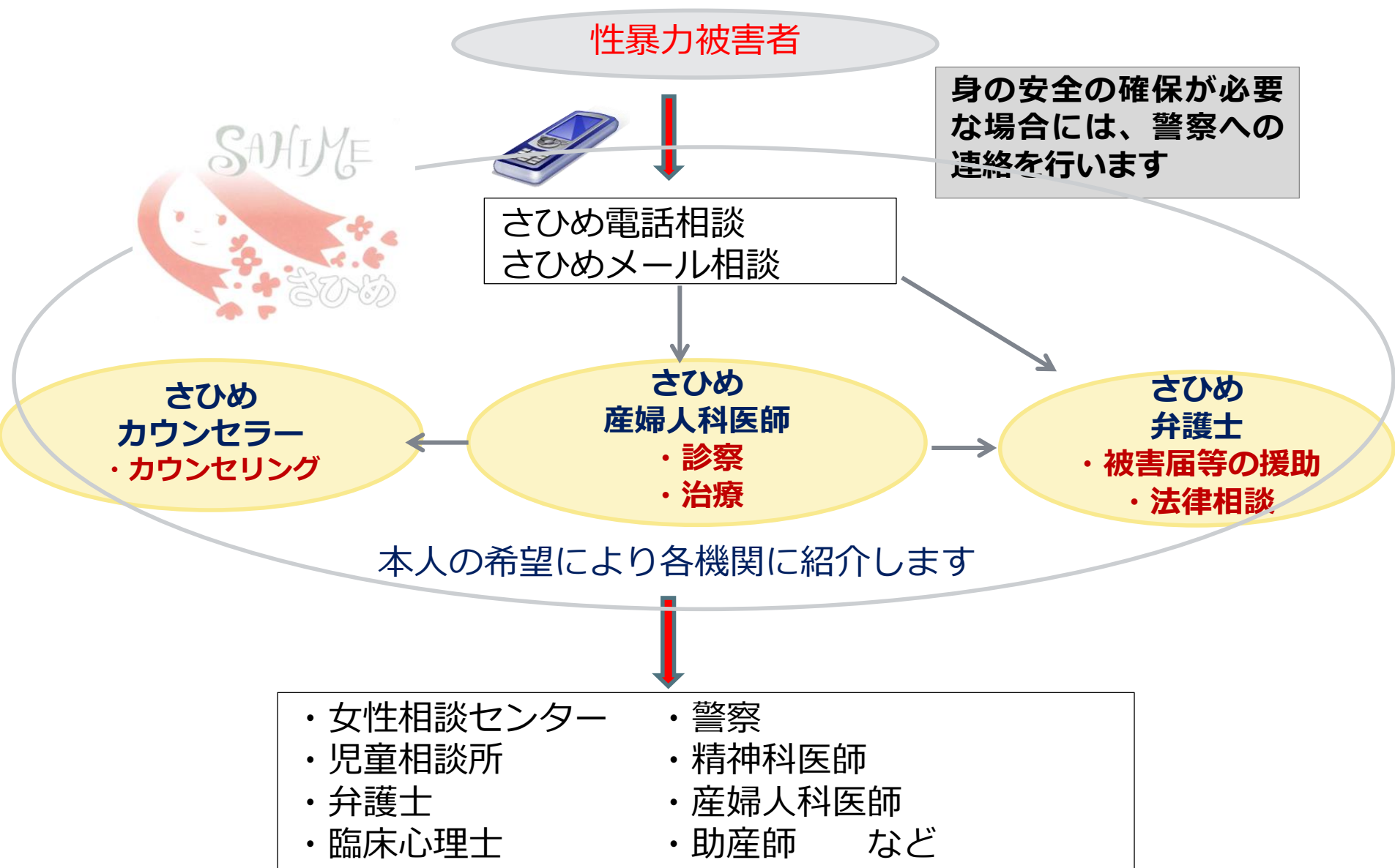
# 性暴力被害者ワンストップ支援センター

- 被害直後からの総合的な支援を可能な限り一か所で提供することにより，被害者の心身の負担を軽減し，その健康の回復を図るとともに，警察への届出の促進・被害の潜在化防止を目的とする。
- 2017年9月時点で，全国に39カ所



全国の性暴力  
支援センター

# 一般社団法人しまね性暴力被害者支援センターさひめ





# 3.性暴力のない大学に するために

---

- ・アメリカ27大学 15万人以上による性被害経験調査の結果、23%の女子学生と5%の男子学生が同意のない性行為（接触も含む）、11%の女子学生が強姦・強姦未遂を経験していた。

AAU (Association of American Universities) report, 2015

- ・性犯罪者の認知の歪みに関する研究
  - ・犯罪者には犯罪行為を正当化する考え方、態度、信念を持つ（中和の技術）  
Sykes & Matza (1957)
  - ・自己非難を緩和する（自己統制の理論）  
Bundura (1991)
  - ・自己中心性を維持するために自己保護的な認知をする（道徳的発達観の観点）  
Gibbs (2003, 2010)
- ・レイプ神話は、男性、社交クラブ、体育会系で、今までにレイプ予防教育を受けておらず、性暴力被害者を知らない学生に多く信じられている  
Mcmahon (2010)

性暴力の予防には、一般の人を行動変容させるプログラムが効果的



## 1. 被害者支援（性暴力、セクハラ、デートDVなど）

- 身体的治療： UBC Urgent Care, Vancouver General Hospitalに紹介  
24時間体制の看護師、医師のチームによる医療、証拠採取  
警察や弁護士への紹介
- 精神的支援：
  - (1)危機状況下の短期的な情緒的サポート
  - (2)サポートグループ

## 2. 予防教育

- 学生に対するワークショップ
  - (1)被害にあった時にどうすれば良いかを教える  
同意と対等なコミュニケーション
  - (2)周囲の人への教育  
危険だと思ったら、直接・間接的に止める、助ける

# 本当の同意

- ・ 強制（無理強い）：パワーや脅しによる対人操作
- ・ 言いなり（服従）：従わないとひどい目にあう、恐怖
- ・ 同意：お互いに状況を理解して納得していること



## 本当の同意の条件

- お互いが、情緒的にも理解力の上でも**対等**
- お互いに、相手を大切に思う気持ち（**誠意**）がある
- お互いのこと（価値観や信念）をよく**理解**していること
- 同意しなくても**罰や攻撃を受けるおそれがない**
- その行為によって生じること（**可能性**）を**理解**している

# 性暴力のない大学にするために

## ・ 予防教育

- ・ 「性暴力は決して許されないこと」を繰り返し伝える
- ・ お互いの人格を尊重しあう人権意識の育成
- ・ 困った時に悩みを打ち明けられる信頼できる人間関係の形成

## ・ 性暴力・ハラスメント相談

- ・ 性暴力被害を訴えやすい体制の整備
- ・ 教員、保健管理センター、学生相談室、ハラスメント相談など関係機関の連携
- ・ 性暴力被害を受けた学生への対応（環境調整、改善）

## ・ 性暴力事件発生時の対策会議や予防法の策定

# 島根大学における予防教育

- 2014年より教養授業において緊急避妊ピルやワンストップ支援センターの情報提供、二次被害の防止について講義
- 2014年より地域のワンストップ支援センターと大学が共催し、学内で性暴力に関する講演会を開催



居場所のない少女たちのリアル


日時 11月29日(日)13時30分～16時  
会場 島根大学松江キャンパス 大学ホール

平成27年度第3回さひめ公開講座・松江市男女共同参画週間  
講演 女性を取り巻く社会的問題～難民高校生を通じて  
講師 女子高校生サポートセンター-Colabo代表 仁藤夢乃さん

講師紹介:1989年生まれ。中学生の頃から街を彷徨う生活を送る。高校中退後、予備校で出会った講師との出会いから社会活動を始め、2011年5月(Colabo)を立ち上げ、現在「居場所のない高校生」や「除夜の対象になりやすい青少年」の問題を先達するときに、自発的に関わりを通じて少女の支援を行っている。著書に「難民高校生～絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル」、女子高生の農社会「関係性の真実」に生きる少女たち。

お申し込み・お問い合わせ  
しまね性暴力被害者支援センターさひめ事務局  
FAX 0852-59-5860 E-mail shimane.sahime@gmail.com  
お名前、所属、連絡先を記入のうえ、FAXまたはメールで11月20日までに申し込んでください  
○当日は受付にて資料代500円をお支払いください ※高校生・大学生は無料

主催 しまね性暴力被害者支援センターさひめ/国立大学法人島根大学  
後援 松江市/島根県教育委員会/島根県弁護士会/島根県臨床心理士会  
ポスター制作協力 島根県立東部高等技術校webデザイン科  
この講演会は公益財団法人キリン化粧品財団の助成を受けています

性虐待被害児の医療について

主催 しまね性暴力被害者支援センターさひめ  
国立大学法人島根大学

日時 2015年9月27日(日)  
13:00～15:30

会場 島根大学医学部(出雲キャンパス)  
【臨床講義棟2階 臨床大講義室】  
出雲市塩治町89-1

講師 高瀬 泉先生  
山口大学法医学・生体侵襲解析医学分野  
性暴力教授センター大阪・SACHICOの  
府等で虐待が疑われる児童の損傷鑑定等

対象 さひめ支援員および医療・  
お申込・お問い合わせ 申込締切  
所属③連絡先

しまね性暴力被害者支援センター  
E-MAIL shimane.sahime@gmail.com  
FAX 0852-59-5860

後援 島根県産婦人科医会/島根県小児科医会  
島根県助産師会/島根県看護協会/島根県

しまね性暴力被害者支援センターさひめ  
平成29年度公開講座

性暴力被害の影響と必要な支援

講師 山本潤氏


2017.10.15(日)  
13:30～16:00

会場:松江テルサ大会議室(松江市朝日町478-18)  
参加費:無料(資料代500円)  
申込先:Fax(0852)59-5860, E-mail shimane.sahime@gmail.com

後援:島根県、松江市、島根県医師会、国立大学法人島根大学、島根県弁護士会、島根県看護協会、島根県臨床心理士会

一般社団法人Spring代表理事

13歳から20歳まで妻父からの性暴力に遭い、その後も様々なトラウマ症状に苦しむ。性暴力被害者に向き合い勉強を始め、2007年SANE(性暴力被害者支援看護師)研修修了。2010年看護学修士取得。2008年より講演活動開始。被害者に対する知識を応用させたワークと講演は、精神ができ理解が深まると好評がある。性暴力被害者支援研修、一般市民対象の講演活動多数。NPO法人女性の安全と健康のための支援教育センター運営委員、日本フレンジング看護学会理事、自助グループ「私」の会運営者。著書「13歳「私」をなくした私 性暴力と生きること」のリアル(朝日新聞出版、2017)



しまね性暴力被害者支援センターさひめ公開講座

男性の非暴力宣言  
-男女がともに取り組む性暴力予防-

講師 一般社団法人  
ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン(WRCJ)  
多賀 太(島根大教授)  
安藤 哲也(NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事)

しまね性暴力被害者支援センターさひめ

ホワイトリボンキャンペーンとは?  
女性への暴力をなくしていくための活動は、暴力を振るわない大多数の人たちと、とりわけこの問題に「無関心だ」と考えがちな男性たちが、主体的に解決へ向け行動することだと考えています。そうした取り組みのひとつが1991年、カナダで始まった「ホワイトリボンキャンペーン(WRCJ)」。男性が主体となる世界最大のキャンペーンで、50カ国以上に広がっています。WRCJでも、対象を男子として尊重する「フェリス」も増やしていく、全入アパジョンも広がっています。

最新情報はコチラ!  
www.facebook.com/wrcj.jp @WRCJapan http://wrcj.jp

日時 平成29年12月10日(日)13:30～16:00  
場所 島根大学川津キャンパス大学ホール  
(松江市西川津町1060)  
対象者 高校生・大学生・教職員・一般市民  
参加費 無料(資料代500円)

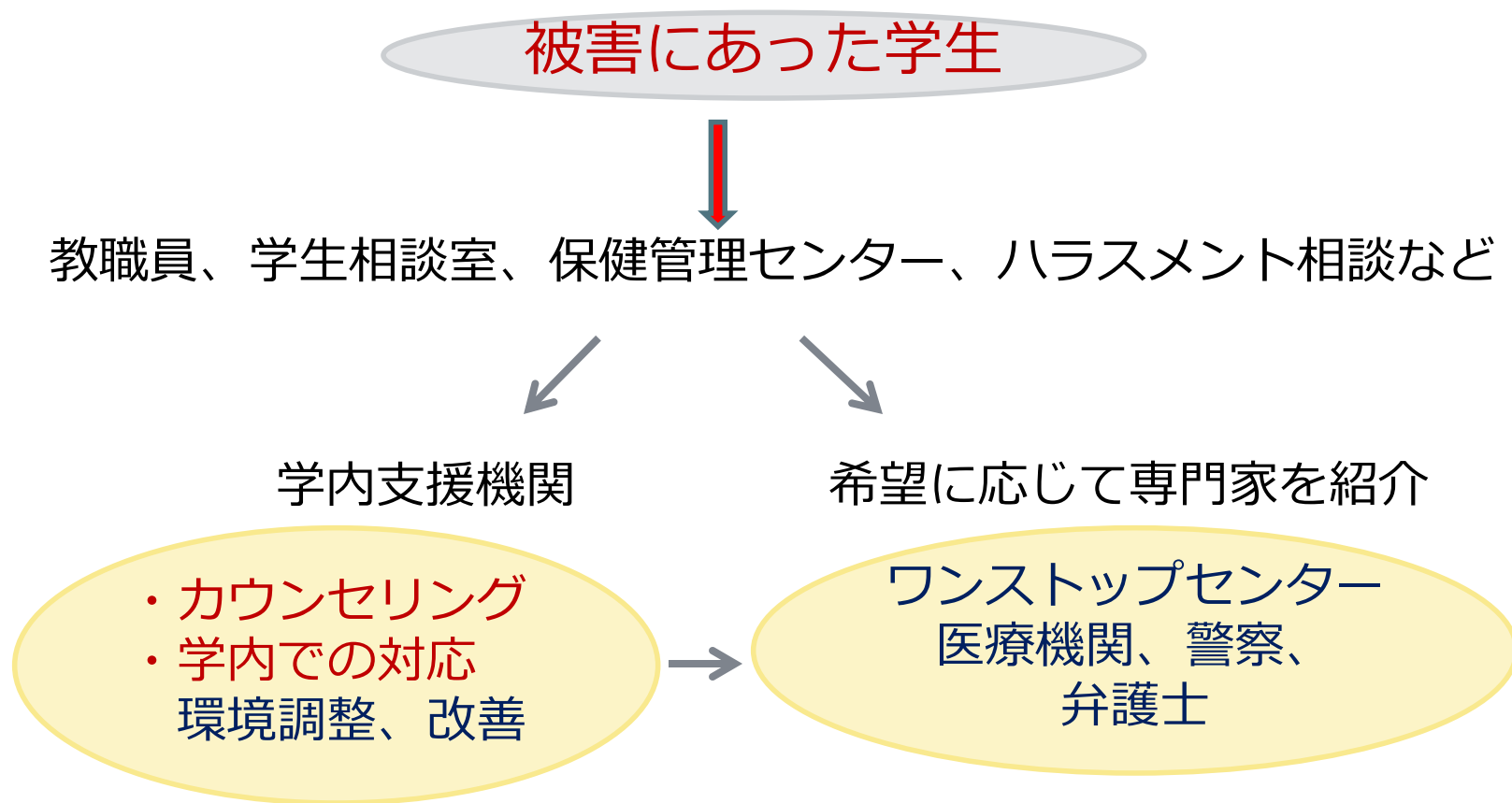
お申し込み先 一般社団法人 しまね性暴力被害者支援センターさひめ  
E-MAIL: shimane.sahime@gmail.com FAX: 0852-59-5860  
〒690-0823 松江市西川津町787-38 山崎心理研究所内  
しまね性暴力被害者支援センターさひめは、性犯罪、性暴力被害者が安心して相談できる医師、カウンセリ  
ング、法律相談等によるワンストップ支援センターです。

共催:国立大学法人島根大学  
後援:島根県、松江市、島根県臨床心理士会、島根県弁護士会





# 性暴力被害・ハラスメントにあった学生 に対する相談体制の整備



安全な環境づくりがまず第一

# 参考文献・情報

- 『一人じゃないよ:あなたのこれからのための支援情報ハンドブック』  
浅野敬子、中島聡美、金吉晴 制作 (2014)  
(独) 国立精神・神経医療研究センター  
<http://www.ncnp.go.jp/nimh/seijin/www/>
- 性暴力被害者への対応：河野美江  
『女性医学ガイドブック 思春期・性成熟期編2016年度版』 金原出版
- 『学校危機とコンサルテーション』  
細田眞司、大西俊江、河野美江 編著 (2015)、新興医学出版
- 『マイ ステップ：性被害を受けた子どもと支援者のための心理教育』  
野坂祐子・浅野恭子著 (2016)、誠信書房
- 『あなたに伝えたいこと：性的虐待・性被害からの回復のために』  
シンシア・L・メイザーら著、野坂祐子ら訳 (2015) 誠信書房